

◎基本目標 4 みんなで考え行動するまち

○基本施策 4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策 4-1-1 自然・環境学習関連施設の事業の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 現状・評価	平成 32 年度 目標	担当課
自然環境学習に関する 行事等の年間実施状況 ※	21 回 466 人	22 回 454 人	24 回 551 人 評価：○	25 回 550 人	根本山自然 観察センター
自然環境教育に係る年間の 学校等団体利用状況 ※	56 団体 2,200 人	44 団体 1,664 人	54 団体 1,887 人 評価：○	70 団体 2,400 人	鬼怒水辺観 察センター

※ 根本山自然観察センターと鬼怒水辺観察センターの両施設における実施・利用状況

【施策の展開状況】

・根本山自然観察センター、鬼怒水辺観察センターでは、施設区域の森林や水辺環境を保全し、その自然環境を活用した自然体験教室の開催や展示等により環境学習を推進します。

- 根本山自然観察センターでは、里山の生き物観察や調査、自然の恵みを素材に使ったクラフトづくりなど、一年を通して里山の自然に親しむ「しぜん体験教室」を 22 回開催し、延べ 518 人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、41 団体 1,490 人ありました。
- 鬼怒水辺観察センターでは、水辺の生き物とふれあう「鬼怒水辺ふれあい観察会」を 2 回開催し、延べ 33 人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、13 団体 397 人ありました。

・自然教育センターでは、市内小中学校の児童生徒が、鬼怒川河川敷の自然を利用した集団宿泊体験活動を通して、河川の環境学習を推進します。

- 市内小学校 3・4・6 年生 2,263 名と中学校 1・2 年生 1,462 名が、集団宿泊を行いました。

・科学教育センターでは、小中学校の観察実験学習や市民の科学体験教室等の催し事を通して、地球環境やエネルギーに関する学習を推進します。

- 市内小学校 3・4・5・6 年生と中学校 1・2・3 年生が、年に 2 回、理科学習施設として利用しました。

・自然環境の保全のための重要地域について、学習できる資料整備を図ります。

- 平成 28 年 2 月に「第 2 次真岡市動植物実態調査報告書」を作成し、自然環境の保全を図るうえでの 4 つの「重要配慮地域」と 4 つの「配慮地域」を選定しました。また、普及版として作成したパンフレットを市役所内に配架しました。

・その他 ● にのみや野外活動センターは、鬼怒川に隣接した自然環境を生かし、野外活動体験をとおして自然・環境への理解を深める場となっています。公民館主催の市民講座（親子でデイキャンプ）の開催や育成会活動のキャンプが実施されています。平成 30 年度は、中学生以下 616 名、一般 1,040 名、合計 1,656 名（うち宿泊者 520 名）の利用がありました。

☛ 水処理センターは、快適な生活環境の確保と河川の水質汚濁防止を目的として建設されました。平成30年度には、市内の小学4年児童652名が社会科見学に訪れ、水処理センターの役割や水の循環利用などの環境について学びました。

V. 根本山自然観察センター 平成30年度行事内容 (22回開催、参加延べ人数518人)

開催日	行事名	参加人数
4月29日	水辺の生き物をすくってみよう in 鬼怒水辺観察センター	30名
5月3日	丸太切り体験	19名
5月4日	丸太切り体験	37名
5月5日	丸太切り体験	27名
5月20日	木の名まえをおぼえよう	16名
6月16日	キケンな虫や草をおぼえよう	21名
7月15日	オオムラサキを観察しよう	26名
7月21日	夜の里山探検	35名
8月11日	セミをつかまえて観察しよう	33名
8月19日	夏休みクラフト カブトムシとクワガタを作ろう	24名
9月17日	キノコのふしぎをさぐる	18名
9月22日	虫とり名人になろう	31名
10月6日	秋のカエルを観察しよう	18名
11月10日	くつつくタネのクラフト 飾れる標本を作ろう	22名
12月9日	里山の生き物調査 リスのエビフライを探せ!	16名
12月16日	落ち葉プールを作って遊ぼう	33名
12月23日	来年の干支イノシシを作って飾ろう	23名
1月14日	根本山へ柴刈に行こう	27名
2月2日	冬越し中の生き物を探しに行こう	34名
2月14日	おとなのクラフト どんぐりの木でストラップを作ろう	4名
2月15日	おとなのクラフト どんぐりの木でストラップを作ろう	7名
3月9日	小枝のクラフト フォトスタンドを作ろう	17名

W. 鬼怒水辺観察センター 平成30年度行事内容 (2回開催、参加延べ人数33人)

開催日	行事名	参加人数
6月24日	カイツブリの親子を見よう	12名
10月7日	赤トンボをつかまえよう	21名

X. 自然教育センター 集団宿泊プログラム例

1. 目標・活動内容 …各校で設定
2. 教育課程上の位置付け …学校行事・総合的な学習の時間・各教科
3. 日程

	第1日	第2日	第3日	第4日
午前	入所式 オリエンテーション	ふれあい活動 ・高齢者との ふれあい活動等	創作活動 ・野鳥ブローチ作り等	自然観察活動 ・野鳥観察等
午後	炊さん活動 ・野外炊さん	自然体験活動 ・いかだ作り	自然体験活動 ・いかだ遊び	全体振り返り 退所式
夜	自由交歓 1日の振り返り	キャンプファイヤー練習 1日の振り返り	自然体験活動 ・キャンプファイヤー 1日の振り返り	

Y. 科学教育センター 平成30年度行事内容

学年	学習	内容
小学校3年生	「こん虫のかんさつ」	こん虫の体のつくり・こん虫の育ち
小学校4年生	「電気で明かりをつけよう」	電気回路、電気を通すもの・通さないもの
小学校5年生	「メダカのたんじょう」	水中の小さな生物の観察
小学校6年生	「大地のつくりと変化」	真岡市の地層からわかること
中学校2年生	「動物のなかま」	動物の観察と分類

事業名	内容
夏休み特別事業「市民の科学体験教室」	昆虫標本の展示やカブトムシ・クワガタとの ふれあい体験



自然教育センターでの活動



科学教育センターでの実験

○基本施策 4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策 4-1-2 環境学習の様々な機会の提供と支援

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 現状・評価	平成 32 年度 目標	担当課
ごみ減量座談会の参加者数	3,632 人	2,339 人	5,668 人 評価：◎	4,000 人	環境課
芳賀地区エコステーション 施設見学者数	3,079 人	3,731 人	4,551 人 評価：◎	3,200 人	

【施策の展開状況】

- ・ごみ減量等の地域座談会を開催し、ごみ減量及び資源の循環についての理解を深めます。
 - 施策 1-1-1 参照
- ・芳賀地区エコステーションでは、施設見学を通して、ごみの減量化や 3R についての環境学習を推進します。
 - 平成 30 年度は、64 団体延べ 4,551 名の施設見学者や体験教室の参加者に対し、施設の PR に併せて環境学習を推進しました。
施設見学者内訳 市内：36 団体 1,908 名、市外：28 団体 1,181 名
残り 1,462 名については、再生品販売会や夏休み環境体験ウィークの来場者のため市内・市外は不明
- ・地球温暖化防止に関する学習会などを行います。
 - もおか環境パートナーシップ会議と連携し、地球温暖化防止をテーマに環境学習会を 2 回開催しました。
- ・学校の各教科・課外活動や総合的な学習の時間において、必要に応じて環境学習の協力を行います。
 - 小・中学校では、「理科」や「総合的な学習の時間」等で、動植物の観察や調査、環境問題等に関する学習を行っています。また、小学 3・4 年生では、社会科の中で使用する社会科副読本「わたしたちの真岡市」を通して暮らしの中でのごみ問題や水の関わりについて学習しています。そのほか、全小学校（14 校）を対象として、子供たちのアグリ体験学習推進事業（農業体験学習）を実施しました。
 - 大内東小学校と真岡西中学校では、学校林を活用し、総合的な学習の時間に自然観察や保全活動に取り組んでいます。
 - 各保育所では、花などの植物や農作物を育て、収穫した作物を調理したり、メダカやダンゴムシなどの小動物とのふれあい体験を実施しました。
- ・こどもエコクラブの活動を支援します。
 - 市内 3 団体 329 名（真岡児童館 やさしくラブ、くまちゃん エコクラブ、真岡小学校 5 年生 エコこだまが丘）が、こどもエコクラブに登録・活動しており、市は事務局として連絡仲介、広報支援などを行いました。
- ・市民活動推進センターでは、登録された環境学習活動団体の催し事開催等を支援します。
 - 9 団体の催し事開催等を支援しました。

◎基本目標 4 みんなで考え行動するまち

○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

●施策 4-2-1 環境保全に関する情報の共有

【施策の展開状況】

- ・環境基本計画に関する年次報告書を作成、公表し、環境に関する情報の共有を促進します。
 - ☛ 年次報告書を市内企業・団体等に配布するほか、市ホームページに掲載しました。
- ・環境に関する学習会や催し事、環境保全に関するボランティア活動の情報を「広報もおか」、「ウィークリーニュースもおか」及び市ホームページ、並びにケーブルテレビ等で提供します。
 - ☛ 随時、提供しました。また、市内だけではなく、県内や県外にも発信される配布物やメディアにも情報提供を行いました。

○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

●施策 4-2-2 各主体の環境保全活動の支援

【施策の展開状況】

- ・地域や市民が安心して環境保全活動を行えるよう、市は市民ボランティア活動に関する保険制度により、万が一の事故に備えます。
 - ☛ 真岡市民または市内でボランティア活動を行っている方等に対して、傷害事故と賠償責任事故について補償しています。
- ・市民活動推進センターでは、登録された市民活動団体の情報発信や活動の支援を行います。
 - ☛ 市民活動推進センターでは、年 4 回発行される広報紙コラボにおいて登録された市民活動団体の情報提供を行うと共にその団体の活動を支援しました。
- ・その他：各主体による環境保全活動としては以下のようなものがあり、市役所は事務局をするなどして、活動を支援しました。
 - ☛ 「真岡の自然を守る会」は、真岡市公民館真岡西分館を拠点に活動しており、「春の七草摘みと七草粥作り」、「自然観察バス研修」を一般募集により実施しました。また、「春の七草寄せ植え」の市内小学校等への配布と、河川清掃と水辺の野鳥観察会を行いました。
 - ☛ 「真岡自然観察会」は、SAVE JAPAN プロジェクトに参加し、自然観察会や自然環境保全に関する啓発などの活動を行いました。
 - ☛ 「とちぎ元気な森づくり県民税事業」や「もおかの明るく安全な森づくり事業」では、地元住民で組織した管理団体により、下草刈りや清掃活動などの里山林の保全管理作業が行われました。（施策 2-1-1 参照）
 - ☛ 地域公民館活動では、花いっぱい運動を実施し、76 館が参加しました。

- 西沼地区と宿中地区とでは、多面的機能支払交付金事業に取り組んでいます。このうち、西沼地区では、生態系に配慮した水路の草刈り、生き物調査、田植えなどの体験学習、景観形成のための施設への植栽等を行いました。宿中地区では、水路・道路の草刈り、土水路等の保全を行いました。
- 真岡工業団地総合管理協会の環境部会では、隔週水曜日、五行川及び鬼怒川に排出する工業団地からの総合排水にかかる水質調査と、環境パトロール及び工業団地内の一斉清掃をそれぞれ年2回実施しました。
- 平成27年度に「全日本学校関係緑化コンクール」の学校林等活動の部で特選（農林水産大臣賞）、平成28年度に「全国緑の少年団活動発表大会」で第40回全国育樹祭大会会長賞（国土緑化推進機構理事長賞）を受賞した大内東小学校の学校林について、これを支援するPTAの管理活動が、平成28年度の「全日本学校関係緑化コンクール」で協力賞を受賞しました。市役所では、PTAの管理活動では実施が難しい藪の刈払いや枯死木の伐採を「とちぎの元気な森づくり県民税事業」を利用して行い、学校林をより活用しやすくしました。



大内東小学校の学校林を活用した環境学習



「とちぎの元気な森づくり県民税事業」を活用して管理された里山林



もおか環境パートナーシップ会議による環境保全ボランティア活動



○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

●施策 4-2-3 協働による環境保全活動の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 現状・評価	平成 32 年度 目標	担当課
協働による環境保全ボランティア活動に関心のある市民の割合※1	44.2%	41.9%	40.2% 評価：▲	55%	環境課
自然環境の保全活動に参加している市民の割合※	12.5%	22.9%	22.7% 評価：◎	20%	

※1 平成 31 年度市民意向調査による (対象者 1,222 名)

【施策の展開状況】

- ・市民、事業者、行政の協働による環境保全活動の推進を図ります。
 - 栃木県では、平成 28 年 3 月に「生物多様性とちぎ戦略」の改定を行い、平成 28 年度からの 5 ヶ年の後期重点プロジェクトの一つとして「人、地域、企業、団体等の協働推進プロジェクト」を掲げており、企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動の推進を目指しています。本市では、平成 18 年 2 月に市民、事業者、市の協働による環境保全活動を実現する「もおか環境パートナーシップ会議」を設立しました。
- ・「もおか環境パートナーシップ会議」の一層の機能強化を図り、環境保全活動を推進します。
 - 温室効果ガス排出量削減のため、生活の中で省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を国民一人ひとりに促す取組みである「COOL CHOICE」に賛同しました。
 - 大久保地区モデル事業部会では、「自然ふれあい園“大久保”」で、市民と企業の協働により園内の保全管理、ホタルの飼育、里山林の管理、花や野菜の栽培、動植物の調査を行いました。

平成 30 年度の登録人員等：個人 63 名、企業 12 団体

平成 30 年度の活動参加人数：延べ 539 人 (平成 29 年度：延べ 621 人)

- 環境学習推進事業部会では、地球温暖化をテーマにして、小学生親子を対象としたエコの大切さを学ぶ「夏休み環境学習会」と、環境展において自然エネルギーに関する学習会を開催しました。
- エコ・レポーター部会では、継続的にごみの不法投棄現場の現地調査と、マイバックの持参率調査を行っており、環境展でその成果を公表しました。
- 広報部会は、「自然ふれあい園“大久保”」の紹介リーフレットと、会報誌の作成を行いました。